



雨水利用を進める全国市民の会

会長 辰濃 和男

〒131-0032 東京都墨田区東向島 1-8-1

TEL: 03-3611-0573

FAX: 03-3611-0574

H.P: http://www.rain-water.org/

一激動の2002年度から充実の2003年度へー 墨田区役所にて 6月25日(水) 午後6時30分より第9回総会を開催します

6時より「宇宙船地球号ー空から雨が降ってきた」

(バングラデシュにおける市民の会の活動をテレビ取材)上映 お見逃しなく

昨年度は日本水大賞、東京都環境賞のダブル受賞、村瀬事務局長のロレックス賞受賞と、当会の活動が大きく評価されました。

今年の3月には、京都で開かれた第3回世界水フォーラムで、雨水利用セッションが世界の水危機の切り札としてその実践的課題を明示できたことは、前回のオランダ・ハーグに比べて大きく前進することになりました。その際、UNEPが実施した今後の水危機に備えての最重要プロジェクトの投票で、43プロジェクトのうち雨水利用が第5位となり、世界的にも高い評価を得ました。

6年がかりで一昨年12月に完成した「空と海と大地をつなぐ雨の事典」の英訳本、“Skywater-Rain in Japan and around the World”を世界水フォーラムに向けて出版しました。国際会議で披露することによって、雨の「利用」から「文化」まで広がりをもった活動を世界に向けて情報発信することができました。

今回の総会では、雨水利用をめぐる大きな転換期に入ったことを、皆さんとともに再度確認し、今後の新たな活動に向けて考えていきたいと考えています。是非、ご出席をお願いします。

第3回 世界水フォーラム 盛会のうちに終了!

3月16日から23日まで京都・大阪・滋賀で第3回世界水フォーラムが開催されました。この8日間で約350の分科会が開かれ、187カ国、2万7千人(全体では約10万人)もの参加者を集めました。

公式分科会である雨水利用セッションは、世界水フォーラム雨水利用実行委員会(日本、会長:高月紘・京エコロジーセンター館長・京大教授)と国際雨水利用学会(IRCSA)、ジャワハラルネール大学(インド)の3者の主催で開催しました。当会も世界水フォーラム実行委員会に参加しました。会場には200人を超える参加者がありました。

さらにこの実行委員会では、21、22日に京エコロジーセンターで「世界水フォーラム雨水利用in京都」を開催しました。参加者は延べ1200人、会場は満席状態が続き、盛況な会となりました。当会からも約40人が参加しました。

以下に参加した会員が報告します。

3月20日...国際会議雨水利用セッション: 京都国際会議場にて

□平和のための雨水タンクを!

オセアニア、アフリカ、アジア、南米、ヨーロッパからの専門家10人が発表しました。会場は、多数の参加者が訪れ、水の衛生、農村の雨水利用、都市の雨水利用、環境教育の四つの分野から、質問や活発な議論が交わされました。雨水利用を世界の水危機の切り札として水供給の主要な水源と位置づけ、小規模分散型の水利用としての管理システムを実現することなどが提言されました。

記憶に残ったのは村瀬事務局長の発表です。「戦争のためのタンクではなく、平和のための雨水タンクを」とのメッセージに会場から大きな拍手がわきあがりました。イラク攻撃がはじまった日と同じくして、印象的な一場面でした。

(中臣昌広さん報告)



次ページからの内容

- ・「世界水フォーラム雨水利用in京都」報告(2,3)
- ・“Skywater-Rain in Japan and around the World”「雨の事典」英訳本を発行! (4)
- ・「雨を捨てない保水型下水道へ」(国土交通省下水道部下水道企画課長・上村祐二氏講演を中心に)CD版発売 (4)
- ・雨水利用文献データベース文献編完成間近か (4)
- ・公開講座「森の魔術師・変形菌を探す」参加募集 (5)
- ・「東本願寺の雨水利用を考えよう」プロジェクト発足 (5)
- ・国際交流の旅に参加しませんか (5)
- ・投稿 韓国の雨水利用研修生ホームステイ奮闘記 桐畑寛子さん (6)
- ・風コーナー (7)
- ・地下水に浮かぶ町 - イトヨの里・大野を訪ねて
- ・マスコミ情報 (8)



World Water Council
3rd World Water Forum

「世界の水危機の切り札としての雨水」 京エコロジーセンターにて —世界水フォーラム雨水利用in京都— 報告 3・21(祝)~22(土)



21日... 記念講演:アンドリュー・ロー(国際雨水利用学会会長) パネルディスカッション「いかに地域で雨水利用を根づかせるか」 子供雨水利用ワークショップ

□雨水の利用から雨の恵みの活用へ



ロー氏は、国際的な水問題への対応策として雨水利用がきわめて重要であることを力説されました。コストが安く、身近な水源であり、かつきれいな水が得られるという点で、特に途上国の水問題において有効な手段であると述べ、タイやケニアでの普及の実情を紹介されました。

続いてのパネルディスカッションでは、京都市消防局の梅垣氏が、京都市で進めている「環境防災水利」という考え方を紹介しました。水を雨水も含めて貯留し、普段は暮らしに役立つ「環境の水」として、非常時には飲料水や雑用水として利用するというものです。京都・

雨水利用を進める会の上田氏は、京都は地下水が豊富なため雨水利用への関心が低いこと指摘しました。香川・雨水利用を進める会の矢田氏は、四国の渇水状況や雨水利用の普及状況を紹介し、事業者の立場から行政との連携・協力の課題を指摘しました。日本雨水システム学会の福島氏は、四国島嶼部での大規模な「トンネル貯留」の例や、ため池の活用を紹介しました。当会の村瀬事務局長は、全国の自治体の状況と普及のための課題をまとめました。

私はそのコーディネーターでしたが、現実には渇水に直面している地域などでは雨水利用の普及が進んでいるが、全国的に見て関心が低いと感じました。「水が足りないから雨水利用をする」のか、水循環の回復や水資源の保全など「雨水を大事にする」という視点から取り組むのか、このあたりの考え方の違いが背景にあるように思います。「雨水利用」ではなく「雨の恵みの活用」という理念を地域に根づかせることが必要ではないでしょうか。
(山本耕平さん報告)

京都でレインスティックつくりました!(寄稿) 京エコロジーセンター 小田貴志さん

子どもたちを対象に「レインスティックづくり」を行いました。遊びを通して雨水の事を学んでもらいたいという思いで設けたプログラムで、講師は雨水利用事業者の会の方々にご担当いただきました。紙管に竹串を刺したり、トウモロコシの種や小石を紙管に入れたりなど、初めて行う作業に子どもたちは熱中して取り組んでいました。最初は子どもの付き添いで来られていた保護者の方も、途中からはご自分のスティックを作成されるなど、大人にとってもかなり興味深いものだったようです。メインの講師を務めて頂いた徳永暢男さんからは、雨水と生活との関係や世界の雨水利用についてお話いただき、しばし命の源である雨水の大切さを実感しました。なお、当日の様子は、当センターホームページ (<http://www.miyako-eco.jp/>) でも掲載しています。どうぞご覧下さい。

22日 分科会 「雨水利用のグローバルネットワークを目指して」

第1分科会 「雨水利用における国際連携と協力」

ムーヨン博士(韓国)は、雨水利用を通じて国際的友好関係をつくるためのBIFURU(BIは韓国語で雨、FURUは日本語で雨が降るという意味)プログラムの手始めとして、日本との交流について話しました。ホセイン氏(バングラデシュ)は、首都ダッカから50kmのクトゥプル村で、当会と協力して行っているスカイウォータープロジェクトの状況を報告し、当プロジェクト担当・会員の佐藤清氏は、この地域の空はきれいなので殺菌せずに飲めると説明しました(3月16日テ

レビ朝日「素敵な宇宙船地球号」で放映)。ハートング氏(ドイツ)は、アフリカ諸国における雨水利用の実践・普及について報告しました。「雨水を飲む」発想をしない人々に雨水利用を広めていくには、実践している現場を見せることが一番だと説明し、交流の大切さを強調しました。
(笹岡京子さん報告)

第2分科会 「雨水利用の環境教育・学習」

ケーニッヒ氏(ドイツ・fbr理事)は、自宅に雨水利用を導入して子供たちが面白かったという体験を踏まえ、水の再利用と雨水利用の専門家集団・fbrの活動

で、市民が仕組みを見られる工夫を意識的にしている実践を報告されました。京エコロジーセンターの足立氏は、雨水利用導入の際に伏見の酒樽を雨水タンクとして玄関に配置し、PRしたことを話されました。当会の松本氏はすみだ環境ふれあい館に併設されている雨水資料館の設計を担当し、その概要を説明しました。同センターに隣接する京都市青少年科学センターの杉原氏は、「雨の一滴から始まる水循環」から科学の面白さを、水を生かす人の知恵や水災害や水質汚濁などの学習から水と社会との関係など、幅広く子供たちへ伝えることを実践されています。雨水利用を歴史や理科など多面的にとらえて、雨の大切さを次代に伝えていきたいと思いました。(高橋朝子)

第3分科会「雨水利用のパイオニア」

事業者とアマチュアの市民による雨水利用のノウハウについて議論をしました。島津製作所の小林氏は自社工場の水リサイクルに雨水を活用されています。建築家の黒岩氏は雨水を利用した自然冷房の家を設計されました。雨水利用事業者の会の中山氏は雨水を飲用にするための浄水器の開発について、高井氏は広域集水型貯留槽を使った雨水利用について報告されました。また、市民団体からも4人の方が創意工夫の雨水利用について発表されました。コストを抑え、簡単な装置を今後も開発することが求められます。また、下水道料金の減額など優遇措置も必要です。

第4分科会「雨水利用を活かしたまちづくり」

路地尊の開発者・徳永氏は、防災まちづくりから路地尊を開発したときの役所とのやり取りなどの苦労談を話されました。建築家の樋口氏は、4年前に雨水利用を取り入れたコーポラティブハウスを設計して、1戸当たり12万5千円の設備費をかけ、ほとんどメンテナンスフリーだとのこと。関西雨水利用を進める市民の会の高森氏は、浸透性舗装の新しい材質の開発をされています。宮大工の大森氏は寺社建築に雨水利用を導入した実践を報告されました。緑化コンサルタントの矢壁氏は、屋上や壁面の緑化を専門とされていて、緑のネットワークをつくり、人間にも鳥や昆虫にも憩いの場になる空間としたいと述べられました。

第5分科会「雨水学を語ろう」

日本建築学会の神谷氏、日本下水文化研究会の酒井氏、雨水資源化システム学会の喜多氏は都市計画や水資源化計画における雨水利用や雨水浸透の重要性を説明されました。『雨の事典』を作った高橋氏の話が印象的。日本の雨はアジアモンスーンとつながっており、日本人特有のメンタリティが雨と深く関わって

ることなど、もっと雨を知り、雨を楽しみたいという気になりました。全体を通して雨水利用は、初期の頃のPR的色彩から、具体的な方策やシステムづくりに関心が向けられ、深く根を下ろしつつあることが感じられました。(若林高子さん報告)



ポスターセッションは海外を含め、28団体62枚が展示されました

(京エコロジーセンター)

□てんやわんやの水フォーラム事務局を終えて

私は学生という立場から約1年間水フォーラム事務局に参加しました。この事務局は省庁、企業、NGOなど様々な立場の約40人が務めました。最も忙しかったのは本番1ヶ月前、特に海外招待者の招聘作業は各国大使館との連携の遅れから手間取り、毎晩徹夜という状況でした。会議期間中、私はほぼ京都国際会館の事務局にいました。

事務局では私は各分科会のステートメント、アクションプランのまとめ作業をはじめ、1日約1000本もの電話、苦情対応に追われました。今回の水フォーラムの評価については、いろいろな意見がありますが、参加者からは期待以上であったと声が多くあり、全体としては成功だったと思っています。重要なのはこの会議を一過性のものに終わらしてはいけないということです。今回「議論から行動へ」が叫ばれましたが、この行動がどのように行なわれていくか見ていく必要があります。

私も今回様々な経験をしましたが、この経験を市民の会でも活かして、雨水利用への関心を持った若者を増やしていきたいと思います。(高橋祐司さん報告)

世界水フォーラム雨水利用in京都宣言

最後に世界水フォーラム雨水利用in京都宣言がされました。「…将来誰もが雨に感謝し、当たり前のように一人ひとりがスカイウォーターを溜めて大切に利用し、心配されている水戦争も、みんなが上手に雨を分かち合うことで起こらなくなることを願い、『京都宣言』を世界に向けて発信する。…」として、

国や地域の水資源、水環境政策に雨水利用を位置づけること、雨の意識と文化の革新から雨水学を構築すること、雨水利用のネットワークの強化と活動の再構築、雨水利用の国際交流と国際協力、雨水の情報発信・受信の拠点である国際雨水センターの実現を目指す、などがうたわれました。

Skywater -Rain in Japan and around the World 完成!

『雨の事典』英訳版 世界へ発信!

一昨年の12月に出版した『雨の事典』は、皆様のご協力のもと、この3月に第3刷となりました。そして、同時に世界水フォーラムに向けての英訳の作業をしていた翻訳本が(株)インターブックスから刊行されました。

翻訳には、(株)サブスの篠原順子さんが日本の俳句や民俗的な言葉などを分かりやすく噛み砕いて翻訳してくださいました。昨年10月23日にロレックス賞を受賞した村瀬事務局長が、賞金をこの英訳に使いたいと希望して実現したものです。『雨の事典』の約半分の内容を収録してあります。名づけて“Skywater”です。表紙は突き抜けた青い空に、ア



Skywater-Rain in Japan and around the World
「雨の事典」英訳版

ジア・モンスーンを表す龍を雲の形にして、さらに雨が大地へ降る様子をデザイン化してあります。会員でもあるデザイナー・松本真理子さんの力作です。

村瀬事務局長は、この“Skywater”が世界中の人たちに読まれ、雨を通して日本のことがもっと理解され、雨水利用のみならず雨の文化面で国際交流を活発化させたいと願い、この売上金を『世界雨の事典』の制作基金として活用していくつもりだとのこと。

★申し込みはFAXで事務局へ(1冊¥2500円+送料…税金分がお得です)

★インターネット購買 (amazon.com)でも可能です。

「雨を捨てない保水型下水道へ」CD版 —国土交通省下水道企画課長講演会を中心に— ができました 公開講座プロジェクトより

雨水を下水道へ流しても下水道料金は取られません。しかし、使って捨てると料金がかかります。下水道の専門家は「汚水私費雨水公費の原則」だから当然といいますが、何か解せない思いがありました。昨年6月、7月に下水道料金の勉強会を行い、それをまとめてCD化としました。国土交通省下水道部下水道企画課の上村課長の講演内容を中心に、雨水浸透や雨水貯留の実績の資料集など、内容満載です。とくに上村課長の下水道の「新しい」考え方に注目です。これまで、降った雨はできるだけ速く捨てるのが下水道の役割でしたが、これからは雨を捨てず潤いを回復する役割を持つ下水道が必要となるでしょう。プロジェクトでは、これを『保水型下水道』と名づけました。その形はいろいろあるでしょう。皆さんといっしょに考えて行きたいと思います。

★申し込みはFAXで事務局へ(料金¥1000円+送料)

「世界水フォーラム雨水利用in京都」の資料集 あります



世界水フォーラム雨水利用in京都の資料集に余分があります。

★申し込みはFAXで事務局へ
(¥1000+送料)

雨水利用データベース(文献編) 入力完了! 情報部会より

情報部会では、昨年度「雨水利用データベース」をカード型データベースとして、現在手元にある文献情報(書籍、行政資料、学会論文、雑誌記事など)で国内810件、海外300件(カード化は未完)の入力を完了しました。これらは、会員へのサービスとして情報源に、ホームページでの公開、CD販売なども検討中です。また、雨水利用自治体担当者連絡会による公共施設の雨水利用施設データや最新助成金制度、雨水事典チームの雨にまつわる文学のデータなど、再整理をしながら活用方法を検討する予定です。



お知らせ!!
事務局にパソコンが入りました。今後、ホームページの充実など、積極的に情報発信をしていきます



2003年度第1回雨水公開セミナー

フィールドワーク森の魔術師・変形菌を探そう

4 4 4

梅雨の晴れ間、高尾山の森で変形菌を探しませんか。変形菌は、動物と植物の中間的生き物であり、森や林のお掃除屋さんとして生態系の重要な一翼を担うとともに、その生き方も巧みです。梅雨の時期、変形菌はアメーバのように成長し、晴れ間には色とりどりの子実体に変身します。

今回は、日本変形菌研究会のご好意により、春季観察会の企画に参加させていただくことになりました。専門家の方々が採取方法などをご指導してください。

詳細は同封のチラシをご覧ください。なお、会員以外の方も参加可能です。チラシをコピーするなどして他の方もお誘いいただければ幸いです。

日時：2003年6月22日（日） 10時～16時頃

集合場所：午前10時 京王線高尾山口駅 駅前集合

持ち物：昼食、ルーペ(または虫めがね)、使い慣れたナイフ、木工用ボンド(小)、菓子折りのような紙箱、筆記具、雨具(折りたたみ傘)

●服装：ハイキングスタイル

●参加費：無料

●申込み締切：

6月15日(日)

事務局へFAXで申し込み、もしくはEメールで柴早苗あて(アドレス CBE03058@nifty.com) 申し込みください。



ウルワシモジホコリ

東本願寺の大屋根に 雨の恵みが光る日を

3月23日、世界水フォーラムの雨水分科会がおおりました。その後、東本願寺の若き僧、蓮容さんたち2人を囲んで東西の雨水グループのメンバーが交流し、大いに盛り上がりました。

京都駅前の東本願寺には日本最大の木造建築です。その阿弥陀堂と御影堂は屋根面積が合計12,500㎡。蓮如上人500年忌に、この大屋根の大改修工事が行われます。地方の末寺の僧侶から、自然と調和する新しい試みをと提案があったそうです。そこで、蓮容さんが思いついたのは、ソーラー発電と雨水利用でした。話はめぐりめぐって、当会に到着しました。

蓮容さんたちは、雨水分科会にも参加し、意気投合しました。京都盆地は、地下水の上には浮いていると考えられています。その、へその位置にあるのが東本願寺です。京都の水循環、水文化の復活、息の長い計画ですが東本願寺の大屋根から始まろうとしています。

みなさん、この壮大な夢に参加しませんか。

(人見達雄さん)

東本願寺は、真宗大谷派の本廟ですが、阿弥陀堂と御影堂は、1864(元治元)年の蛤御門の変によって焼失し、1895(明治28)年に再建しました。百余年の歳月により、屋根瓦が損壊し、建物の大修復を行う必要ができました。

国際交流の旅に参加しませんか - アメリカ・テキサスとメキシコ

アメリカのテキサスといえばラスベガスに代表されるように、砂漠の州だから雨が少ないのではと思われるでしょう。雨水利用が盛んなドイツのベルリンでは年間降水量が約580mmですが、テキサスはそれよりも少し多い約620mmです。このテキサスもドイツに劣らず雨水利用を積極的に行っています。このほどUSA雨水利用協会の招きで、テキサスの雨水利用の視察を行います。

また、引き続き、メキシコで開かれる国際雨水資源化学会(IRCSA)の雨水利用国際会議へ参加しま

す。これらにかかる費用は、市民の会が雨水利用の国際ネットワークの構築のため地球環境基金から助成金をいただいた資金で、若干の助成をします。

★参加希望の方は事務局へFAXで申し込みください。詳しい日程はまだ未定ですが、8月21～23日がテキサス、25～29日がメキシコです。

行ってきます

バン格拉デシュ・クトゥプル村へ7月18日～23日に行きます。当会が支援した雨水利用施設の今後の運営の取り決めをする予定です

投稿 韓国の雨水利用研修生ホームステイ奮闘記

桐畑寛子さん（ガールスカウト東京都第159団）

2月14日から18日、私の家は一気に大家族になった。雨水の研修のためリー(Le)さん：ガルメ中学校校長60代、ジュン(Joon)：建築専攻大学2年生、ジーン(Jean)：中学2年生が韓国から来日し、母が環境ふれあい館で仕事をしている関係で、家にホームステイしたからだ。はじめ私は危惧した。こんなに世代の違う人たちが共同生活できるのであろうか。韓国語/日本語/英語の3言語で、情報をうまく伝えることが出来るのであろうか。

そんな気がかりは杞憂に終わった。3人は韓国で一度顔合わせをただけのようだが、家族のようにも思えるくらい協調しながら滞在した。

私は墨田区で1990年にガールスカウトとして雨水フォーラムに参加して以来だったが、今回、中国・台湾・そして韓国が大規模な雨水利用をしていることを知った。翻って日本はどうだろう。つい最近、対イラク戦争で水の大切さが報道されたとはいえ、まだまだ水問題よりは、電力問題のほうが認識されていると思う。

彼らと一緒に生活していて、私が身につまされたのは、彼らの周りの人への配慮の気持ちだ。まず年上の人を大切にする。食事では年上である私の両親が食べ物を口にすまで、彼らは食べ物を口にしない。学生の二人は、私の両親、Leeさん、私が食べるのを確認してから箸を取る。私は家族を待たないで食べたいときに食事をしていたが、そのときは、自分の恥ずかしさもあって目上の方が箸を取るまで待った。その待ち時間さえつらく感じてしまう自分が情けない。

韓国では儒教の思想が生活の中に生きていて、礼儀を大切にする。たとえば言葉の使い方の話。「どういたしまして」という韓国語を「チョンマンネー」と私が言ったとき、Jeanが「最後に“ヨー”をつけないと、悪い印象がつかますよ。特に目上の人には。たとえば学校で先生に“ヨー”をつけないで話すと、先生はあなたのことを嫌って、あなたは損をします。」と教えてくれた。彼らが初めて使う日本語を、長い言い方にもかかわらず（ありがとう、ではなく、ありがとうございます）丁寧語に話したのも、この韓国の習慣のためだと思う。

実際、彼らは人のことをよく考える。外交官のミンさんにお台場に連れて行ってもらったとき、なんと私たちにお土産を買ってきてくれたのだ。母にはハンドクリーム、私にはカラビナ（私が自分のを人にあげたのを見て買ってきてくれた）、Joonの彼女へのお土産は水性顔料ペンの8色セット。みんな相手の使いそうなものを選ぶ。また韓国は入ってきたものを自分の国に合わせて取り入れるのが、得意だ。有名な例は、キムチ。日本から入った唐辛子で、すばらしい食品を作りだした。彼らが話してくれた最近の例は、VDSL。情報通信技術をマンション

群に取り入れ、早くて安い通信基盤を整備した。私の理解が正しければ、ADSLより通信が早くて通信費用が月3000円（つなぎ放題・電話料込・使う月だけ自分でコードをつなぎお金を払う）。修正デジタル写真1枚400円（証明写真サイズ）も供給しているようだ。

こうやって韓国風にアレンジしていく力について、肌で感じたのは、ガールスカウトで韓国の紹介をしてもらうために、夜3人で打ち合わせをしているのに同席したときのことだ。連日の見学・訪問でたくさん移動し、体力的にもピークだと思うのだが（私自身は眠くて仕方なかった）、韓国の紹介のアイデアを次々に、これはどう？と3人で出し合い、歌の歌詞を書き、私がカタカナ表記できるように、何度も何度も歌を歌ってくれた。そんな彼らは、自分の国のことを紹介するのがうれしくて、目が輝いていた。私であつたら、果たしてこうまで一生懸命に自国の紹介をしたらどうか。そのときも年上のLeeさんのアドバイスを入れ、事実3人で計画を立てていた。このエネルギーはいったい何処から出てくるのだろう。

当日の交流では、学生の2人が「サントギ（ウサギの童謡）」を大きな声で教えてくれた。みんなでLeeさんがなぜ日本語を話せるのか考えた。また、意外なものがJoon

とJeanとスカウトの会話の種になった。アニメである。「千と千尋の神隠し」の話で盛り上がっていた。韓国では日本のアニメが字幕で放送されるらしく、「1・2・3・4」という声をJeanは覚えていて、振りつきでキャラクターのまねをしてくれた。

この日あまり積極的になれない中学生スカウトを見て、同じ年のJeanが堂々としてい

ることを感じた。彼女の精神的強靱さは、私も追いつかないところがあった。というのは彼女が、英語・韓国語間の通訳をして、みんなの情報共有をスムーズにする役を担っていたからだ。その上毎日めきめきと日本語を覚え、習得していく。わたしが韓国語を覚えるより彼らが覚えるほうが早かった。

彼らが帰るときには、お世話になった人に電話を掛けていた。そして青砥まで送った私にも成田から電話をくれた。「また会いましょう」を韓国語で覚えきれなかった自分が悲しかった。しかしこの素晴らしい友人たちに出会う機会をくれた雨水に感謝するとともに、受け入れを一緒に手伝った下さった方々に感謝します。ありがとうございました。

（★墨田区在住の桐畑寛子さんは、韓国から来た雨水利用研修生をホームステイされ、さらに、「あまみず」への投稿を快く引き受けてくださいました。ありがとうございます★広報部）



村瀬さんのロレックス賞受賞を祝う会、開かれる

1月18日(土)午後、会場のレストランは、祝賀会に参加した100人を超える人々の熱気があふれていました。



環境のノーベル賞の
ロレックス賞受賞!

昨年10月に村瀬さんがロレックス賞準賞を受賞して以来、墨田区役所や「市民の会」の有志が準備を進め、主催したものです。

山崎区長を始めとする来賓の祝辞など、いくぶん緊張した空気は、式次第が進むにつれほぐれていきましたが、20分間にわたる村瀬さんのスピーチに入ると笑いの渦はとりわけ頻

繁に起こってきました。「自分は皆さんの代理として受賞しただけ」。そんな言葉を小耳に挟んだが、村瀬さんの、志を持って突き進むバイタリティや軽みのある庶民的な人柄、その話術など、個人のパーソナリティなくして「雨水」がこのように早く、世界的に認知されることはなかったにちがいないでしょう。

小山泰正東邦大名誉教授の慈父のようなまなざし、「村瀬さんは進化する」と語った推薦人の一人、墨田区役所商工部長・坂田静子さんの言葉など印象的だった。一層の「進化」を期待します。さらに、この運動の中で多くの「進化」びとが生れることを。
(糸賀幸子さん)

コーナー
風

ホームページのリニューアルに向けて

1998年4月にホームページを公開し、会の紹介及び雨水関連の基本情報を発信してきましたが、会の活動の深化への対応と共に、NGOとしてのホームページの役割も重要性が増してきています。

そこで情報部会では、事務局ならびに広報部会などと連携し、会員並びに一般閲覧者の利便性及び情報の受発信能力・即時性の向上を図り、会員数の増加に寄与できればと思います。

今年は、ホームページの作り方を勉強しながら、上記内容のリニューアルをする予定で、ホームページ制

作を勉強してみたい方、興味のある方、いつでも情報部会への参加を歓迎いたします。

■リニューアル内容（検討項目も含む）

(1)会のイベントなどの情報提供、(2)Q&Aの充実、(3)会報「あまみず」との連携、(4)会からの提案（保水型下水道など）、(5)子供向け雨水サイト、(6)会のオリジナル商品（書籍など）販売、(7)英語版の充実、(8)リンクの充実、(9)資料館ページの充実、(10)雨水利用シミュレーション、(11)雨水データベースとの連動（会員向けサービス）、(12)オンライン会員登録、会員メーリングリストなど
(松本正毅さん)

かんたん雨水タンク作り講習会を終えて

会員から雨水利用をしたいのでタンクの作り方を教えてほしいという要望があり、それに応えるため、3月1日(土)午後1時~4時に、すみだ環境ふれあい館で講習会を開きました。

ポリタンクは従来の丸型に加えて、狭い場所でも設置しやすい縦長のものと、連結すれば容量を増やすのに便利な四角や長方形など5種類を用意しました。

墨田区の会員を中心に出席者17名が、5チームに分かれてタンク作りに取りかかります。肥後守、 Cutterナイフ、きりなど、どこの家にもある工具ですが、扱い慣れないためまごついたりました。徳永講師の指導と受講生のたすけあいで、立派な雨水タンクができあがりました。金沢の杉浦さん、塩尻の中越さん、土浦の関根さん、市原の森さんご夫妻、遠方からの参加ご苦労様でした。この講

習会が火種になって、「タンク作り教室」が各地で開かれれば、また雨水利用の輪が広がります。後日、森茂さんから頂戴したお手紙を紹介いたします。



手取り足取りを辞さない熱心な徳永講師に素人の受講生は、先生の熱が移ったかのように真剣なまなざし

☞宅急便で届いたポリバケ

ツを、教えていただいたとおりにセットしたところ、(セットしたのは妻でした。)その翌日雨が降り、あっという間に70リットルのバケツが一杯になったことに驚きました。「もう一つ作ろうか!!」と今度は妻が言い始めており、「雨党员」が一人ふえました。
(高原純子さん)

- 地下水に浮かぶまち - イトヨの里 大野を訪ねて 高橋朝子

3月の世界水フォーラムが終わってから、越前大野の「福井県大野の水を考える会」を訪ねました。大野市は四方を1000m級の山々に囲まれた古い城下町です。市内のあちこちから湧水が湧き出ており、イトヨの棲家となっています。大野のイトヨは陸封型で、全国で3箇所しかない貴重な生息地です。なかでも「御清水（おしょうず）」は、殿様のご用水としても使われて、夏冷たく冬温かいおいしい水が湧いています。

しかし、今まで有機溶剤汚染があったり、融雪に使う地下水のくみ上げ過ぎで湧水量が減ったり、大野の水をとりまく環境は決して予断を許しません。このようなところに、今度は公共下水道の工事です。

大野市は良質の地下水があるため、市民の飲み水は井戸水です。水道は引かれていません。そこに下水道が平成10年に処理場の建設から始まり、今年4月から第1期の一部が供用開始です。地下水が豊富なため、工事は地下水を抜いて行われました。会の人に案内していただいた「中野清水（なかのしょうず）」は、下水道工事がそばで行われ、せつかく地域の人たちの管

理できれいになったのに、湧水量が減ってきていました。

大野の水を考える会の野田佳江さんは、農村部の住民がせつかく合併浄化槽を入れたのに、地域のしがらみから何百万も負担してやむを得ず農村集落排水事業へ切り替える悩みを聞いた

そうです。周辺の農村部は、農水省の「農集排」事業が昭和61年から始まり、現在11地区で供用されています。しかし、大野の場合、それぞれの家屋が離れた農村地域では、1戸あたりの費用負担が295～725万円にもなり、しかも処理水質はBODが平均で10ppm以上が半分以上を占め、水のきれいな大野にはそ



御清水（おしょうず）にて

ぐわないのです。合併浄化槽が設置費130～200万円で、水質は3ppm程度が一般的だそうですが、それを考えると水の保全ではなく、工事（金儲け）のための工事としか思えなくなってきました。

野田佳江さんは、こんな狭い町では水を守る活動を続けていくことは辛いけれど、大野の水を何としても守って子供たちに伝えていきたいと語っておられました。

変形菌と雨

生木の樹皮上に発生する変形菌の生態群があり、その発生部位は、雨が降った際に木の肌を流れる落ちる雨水の通り道と関連あるのではないかと考えている人がいます。



また、樹上の木の葉の表面には、葉面菌というカビの仲間が生育しているのですが、雨が降ってからしばらくすると、葉の表面に星型の胞子をたくさん形成するらしいことが知られています。そのため、雨の直後に、樹木の下にビニールシートを敷いて、枝を揺らして雨露を落下させて集めると、その水滴の中に、星型の胞子を検出することができるという研究例を聞いたことがあります。

（日本変形菌研究会の観察会幹事で神奈川県立博物館の出川洋介さんからの情報です。）

マスコミ情報：

- 3月16日テレビ朝日「素敵な宇宙船地球号」で市民の会のバングラデシュでの活動を放映しました。
- 4月17日（水）の朝日新聞都内版に「雨の事典」英訳版完成の記事が掲載されました。
- 5月12日の読売新聞の東京版に、墨田区が雨水利用と屋上緑化のプロジェクトで自治体環境グランプリ（社会経済生産性本部主催）を受賞したことが報道されました。パートナーである雨水利用を進める全国市民の会も一緒に表彰されます。授賞式は5月31日です。
- 5月17日（土）のInternational Herald Tribune/The Asahi Shimbunに、雨水利用の取り組みが大きく紹介されました。
- 「文芸春秋」7月号（6月発行予定）の「無名人国記」に村瀬事務局長が紹介されます。

編集後記：* 京都では単に雨水利用にとどまらず、持続的開発にむけて自然の摂理に従った水利用文化の再構築が問われたと思いました。* 「雨の事典」の材料探しはまだ続いています。情報がありましたら広報部まで*